

# おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー部報第 11 号 (7 月 15 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Y1連勝！モンテユースBに辛勝

7月14日(土)県総合運動場の第二運動場(人工芝)にてY1第8節モンテユースB戦が行われました。モンテユースAはプリンスリーグ東北1部に在籍しており、JFAアカデミー福島に次ぐ第2位につけている。しかし、全体で31人しか在籍していないのに2チーム出場させるのはさすがに厳しいのか、モンテジュニアユース村山(中学生)の選手を起用するなどしてやりくりしていますが、Y1で厳しい戦いを強いられている。前節終了時点で、山東、上山明新館、モンテユースBが勝ち点3で並んでいる。要は、今期のY1、この3チームが降格争いをしている<sup>1</sup>。前節、上山明新館との直接対決に勝利し、ホッと胸を撫で下ろしましたが、今節のモンテユースBとの直接対決もかなり重要。そういえば、去年の残留も、山形城北と新庄東との直接対決に勝利したことが大きかった。ということで、今節は裏天王山 part2。

キックオフは第4試合の16:00。遅い時間ながら、湿度が高く、消耗が早いことが予想される天候。午前中、選手たちは県営野球場(中山球場)に山東-天童高校戦の野球応援に行ったが、そこではしゃぎ過ぎて体力を使っているやも知れず、そこが心配なところ<sup>2</sup>。第3試合と第4試合の運営責任チーム(主管)に当たっている山東から、第4審として今年3級審判受講予定のサブちゃん、記録として部長(ベンチ部部長)ことシマヌキ(1年)、係長ことユウダイ(2年)、大臣ことリョウゾウ(1年)が本部ベンチ入り。他4名が担架係として運営に参加。試合が開始されると、GK・DFに落ち着きのないプレーが頻発し、MF・FWに質の低いプレーが多々見られ、試合の入りとしては最悪。いつ失点してもおかしくない流れ。選手の体も重たく感じられる。「この大事な試合に、こんな出来では困るんだよ！」とベンチで顧問が熱くなれども、選手は(笛吹けど)踊らず。アンカーとボランチの逆三角形のトライアングルも、選手間の距離が近過ぎるのとスライドが遅すぎるのとで、機能していない。ただ、モンテユース

<sup>1</sup> 自動降格は全8チーム中7位と8位の2チームとなります。ただ、山形県のチームで今期プリンスに所属しているモンテユースAと日大山形高校の2チームが山形県リーグ(Yリーグ)に降格し、今期Y1の1位チームがプリンスと県リーグ間の入れ替え戦に敗れた場合(昇格チームがなかった場合)、5位、6位も自動降格します(来季のプリンスリーグは1部2部制を止め1リーグ制に移行する関係で、順位によってはプリンス1部所属のモンテユースも入れ替え戦に出場します・・・すなわち県リーグへの降格の可能性があります・・・まあ今のモンテユースAの状態であれば大丈夫かと思いますが)。プリンスと県リーグ間で降格2チーム・昇格1チームの場合、Y1の6位~8位が自動降格、降格1チーム・昇格0チームの場合もY1の6位~8位が自動降格、降格0チーム・昇格0チームの場合、7位・8位が自動降格、降格0チーム・昇格1チームの場合、8位のみ自動降格となります。

<sup>2</sup> 前日、選手には、「はしゃぎ過ぎて疲労しないように。慎重に応援しなさい。」とは伝えたものの、静かに座って応援するのでは、野球応援に行った意味がないですからね~。

Bも決め手に欠いて、(モンテユースBにとって)良い入りを得点につなげられない。そんなこんなで15分が過ぎる。「いやあ、こんな調子で失点しないのはラッキーだ」とベンチで語り合っていると、山東ベンチから遠いところ(モンテユースBゴール方面)でリクが倒されて笛が鳴る。遠くてよく見えなかったものの「その程度のコンタクト、ファールじゃないよ(リク何コケてんだ、弱いんだよ、早く立て)」とFKをもらったもののレフリーとリクに毒づいていると、何とPKだった! 難なくPKを決め、山東先制!! 審判を味方につける山東の攻撃炸裂!!! そういえば、同じレフリーが今年のY1山形城北-山形東戦をジャッジし、山東が明らかにペナルティエリア内でファールをしたにもかかわらず、GKサカグチの「エリアの外ですよ」との声に導かれペナルティエリアぎりぎりのFKになったこともある(結局その試合、2-0で山東の勝利)。試合後サカグチにシュートストップを褒めると、「先生、今日僕の一番のプレーはPKをFKにしたことです」とブラジル人の好むマリーシア(ずる賢さ)をみせたことが思い出される<sup>3</sup>。ラッキーな形から先制すると、押され気味ながら今度はCKからUBことウスバがヘディングシュートをねじ込み、望外の2-0で前半を終える。

「後半は、(内容は悪いのに得点が入っていく)前半のようにはいかないだろ～」と思い試合を眺めていると、後半早々にペナルティエリア付近でFKを得る。「ボールをセットし蹴る直前に(相手が「壁」を作り終わった後に)、ボールを少し動かして(セットし直して)シュートコースを作る小手先の工夫をすると良いんだけどな~<sup>4</sup>」などと邪念をもって眺めていると、コテツチャンは正攻法に蹴り出す。これまで練習(練習試合)でも決まったところ見たことがないので、コテツチャンには悪いですが全く期待せず眺めていると、壁の上を超えて? ネットを揺らすビューティフルシュートとなる。これで3-0。PK、CK、FKのセットプレー3連発だ! 頬が緩むのは当然。しかし、その後、モンテのボランチがワンツーなどで山東MFのディフェンスをはがし、DFラインに迫る迫力ある攻撃を立て続けに受け、1失点し、そして、2失点する。DFとGKが最後の粘りを見せることができないのは確かですが、それよりも、MFの段階でドリブルを止められなかったり連携あるディフェンスでワンツーを阻むことができていない。そして、足をつる選手が出始める(やはり消耗が早い)。「これは、同点、逆転も時間の問題だな」と戦況を悲観しておりましたが、足をつるまで頑張ったケイジュに代わり出場したイギータことコーセーなどディフェンス陣が最後の頑張りを見せ、結局辛くも逃げ切り3-2の勝利。

体力のなさ、1対1の弱さ(対人プレーの弱さ)、攻守にわたる連携のまずさなど、課題をあげればきりが無い試合でしたが、またしても直接対決に勝利し、勝ち点6で前半戦終了。「公式戦は内容よりも結果」とは渡邊前監督のお言葉ですが、まさにそれを地で行く粘り強い勝利。これで新人チーム3連勝! 例年、チームの代替わりをした後、勝利が遠のくのですが、さまざまな幸運もあり、いつになく順調な船出。応援ありがとうございました。次節は、夏休みを挟んで間隔が空きます。夏場のトレーニングで走り負けない山東になって、Y11位の東海戦に臨みます。よろしくお祈りします。

8月18日(土) Y1第9節 東海大山形戦 16:00 ~ @天童第二

<sup>3</sup> 23年度部報第13号を参照して下さい。昨年は記述を抑えたのですが、今回は書きます。

<sup>4</sup> この小手先の工夫は、ニアサイドを巻くシュートを放つ場合、特に有効です(壁の外側方向にちょっとボールをずらす)。